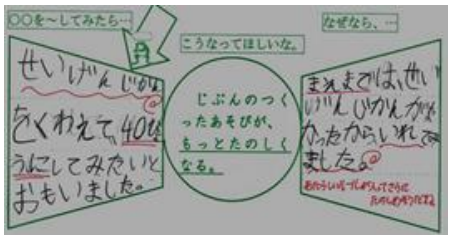
県教研に参加された先生方の授業実践

１年「あきずにあそべる　あきランドづくり」　　岩津小学校　　近藤　和恵

〇実践

台風通過後に、落ちた木の実や葉っぱを集めた。同時に自然物を生かした工作や遊びの本を教室に集めておいたので、子供は自分の製作したい物を選び製作活動を始めた。一人ではうまく作れず、楽しめない状況を変えるために、子供は、同じおもちゃを作るグループで遊び方を考えた。



＜思考したことを表現したワークシート

次に、交代制で「あきランド」を開き、遊んだ子が、よかった点とアドバイスできる点を付箋に書いて渡した。予想以上にうまく遊べなかったので、「もっと楽しい遊びにするにはどうしたらよいのかな」という課題で話し合う場を設定した。付箋でもらった意見や他の遊びを体験したことをもとにして楽しい遊びにするための考えを伝え合った。考えの根拠を記述できるようにワークシートを工夫した。遊びを改善し、学級内だけではなくもっと多くの人に遊んでもらいたいという願いが子供にあったので、園児を招待して「あきランド」を開いた。園児に合ったルールを考えたり、プレゼントを用意したりと、自分たちのやりたいことが広がっていき、長い単元も飽きずに取り組むことができた。

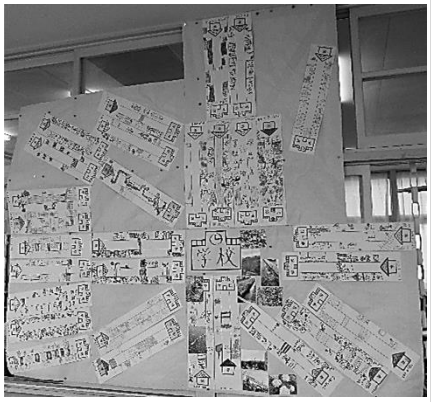
〇成果

グループでおもちゃの改良や対象に合った遊び方について深く考えたことで、繰り返し試すことができた。新たな気付きが生まれ、休み時間も仲間を募って没頭して遊ぶ姿が見られた。また無自覚に行っている活動に理由を尋ねることで立ち止まって振り返ることができ、子供は以前の体験や友達のアドバイスが根拠となっていることに気付いた。根拠と関連付けて表現する力が高まった。

２年「春の町たんけん」　　北野小学校　高屋　有花

〇実践

北野学区には、ここにしかいないすてきな人々や、環境がある。そこに住む子供にとっては当たり前なことでも、実はすてきなことがたくさんあるということに気付かせたい。そして、気付いたことを１対１で教師にだけ伝えていくのではなく、子供同士で伝え合えるようになってほしい。活動を通じて、更に気付きを深めていってほしい。そう願い、本実践に取り組むことにした。



実践では「道カード（＝自宅から学校までを一直線につないだカード）」を活用した。右左折関係なく、気付いたすてきをできるだけたくさん記入させるためである。また、発表時には自身の絵が描いてあるペープサートを使って発表した。ペープサートは、指示棒を上下どちらにでも取り付けられるようにしておく。これを使って道カード上を歩かせながら発表した。ペアでの発表でも動かしやすいように、指示棒を取り付けなくても動かせるようにした。

〇成果

「道カード」によって通学路で見るすてきな人や環境に意識を向け、気付きを増やすことができた。また「教具の工夫」によって、皆が意欲的に発表をすることができ、子供同士で伝え合う姿が見られた。今回は、すてき探しの手がかりとして通学路という着眼点を与えてから始めたが、「人」に対しての気付きは少なかった。秋には学区の人と触れ合いながら行われる「秋の町たんけん」がある。そこで更に本実践を発展させて「人と人とのつながり」への気付きを増やしていきたいと思っている。